

## ほたるの里視察研修

味夢の里が出来、完成前の予想より繁盛し。農産物も順調に成果が上がっていると聞いております。ほたるの里では、コシヒカリの2kg入りを常に出店しております。精米日を記入しておりますが、精米日の古いものは売れないような気がします。コシヒカリ以外は、黒枝豆、黒豆を出店しました。良質のものは、飛ぶように売れるような気がします。味夢の里が本当に地域にあり、これを利用しない手はないと思っています。農作物、加工食品等地域独特の商品が販売出来ればと思っています。「ほたるの里」の女性部「夢ほたる」では、近年、黒豆の味噌、もろみを作り頑張っておられますが、先ずは、これらが京丹波の商品となって販売出来ればと思っています。今回の研修そのような思いとこれから始まる農作業にかけてお互い頑張っていこうとの思いで楽しく明るく視察研修に行きたいと思っています。よろしく願い申し上げます。

## もち米の増収を目指して

例年ほたるの里のもち米は、1反5畝作付けしましたが年々美味しいとの評判で早々に売り切れとなり会員さまの要望にお応えすることが出来ませんでした。今年は、2反6畝を計画しております。皆様のご要望にお応えするのと、加工(餅つき)の回数を増やしほたるの里の美味しいもち米を知っていただく努力をしていきたいと思っています。又、味夢の里にも常に出店していければと思っています。

## JA京都統一部会本部・支部合同視察研修会に参加して 谷山正

2月18日(木)19日(金)に徳島県勝浦郡上勝町の株式会社いろどり様に視察研修に行ってきました。株式会社いろどり様は、テレビ等でみなさんご存じの方が多いと思いますが、おばあさんが山の葉っぱを売り、年収1千万円を稼ぐと言う地域で、私も研修に行く前から楽しみにしていました。彩(いろどり)とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを料理のつま物として商品化したものです。これらの生産物は軽量で綺麗であり、女性や高齢者でも負担なく取り扱うことが出来る商材となっています。当時農協職員だった横石知二(現・株式会社いろどり代表取締役社長)が「彩」と名づけて昭和61年に4軒の生産者とスタートしました。現在の販売額は約2億6000万円となっております。中には年収1000万円以上稼ぐおばあちゃんもおられます。

代表取締役社長横石知二さまの講演を聞きました。先ず驚いたことは、生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市場情報を迅速に共有されていることです。積極的にパソコンの導入をし、仕組みづくりをされている。平成23年7月よりタブレット使用の実証実験を開始され、平成24年7月より本格的に導入されている。現在約200軒ある彩農家は、お年寄りがパソコンやタブレットで(株)いろどりやJA(農協)から送られてくる情報をキャッチしてどんな葉っぱをどのぐらい出荷するかを計画を立て葉っぱの収穫をされる。

横石社長さんの軌道に乗るまでのお話を聞かせていただいたが、過去のしきたりにこだわらず、常に前向きで、発想豊かで感心させられる事ばかりでした。地域の活性化は、お金儲けでお年寄りが元気になることをモットーに頑張られたようです。横内社長が農協勤務時代に自分の給料を長年にわたり家に入れず、地域の葉っぱ事業のために行動されたり、特に挫折して村を出ようとした時、村のおばあちゃんが一晩で村中のみんなに横石さんを引き留めようと署名をして、「横石さんがいないとこの村はダメだ」と言い。車で出ようとする横石さんを通せんぼし、「村を出るならこの私をひき殺してから行きなさい」と横石さんを止めたそうです。横石さんの努力が村の人々から信頼されていたのを知られ、思い直し、又、頑張ってがんばって来られたとのお話もされました。将来は、山の高いところからの運搬は軽量の葉っぱ故、ドローンを使い運搬したいとの要望も話しされていました。1時間の講演でしたが中身の濃い本当に参考になったお話を聞かせていただきました。

この講義を受けて、横石社長のように発想力、行動力はないにしても、常に前向きで、ビジネスチャンスをつかみ、「ほたるの里」のみならず地域のために生かしていきたいとの思いで帰路につきました。

美しいふるさとをみんなの力で守って行こう